

「希少転移乳がんの局所及び全身療法の観察検討」に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2018年6月28日～2020年6月30日

〔研究課題〕

希少転移乳がんの局所及び全身療法に関する国際共同後向きコホート研究（OLIGO-BC1）

〔研究目的〕

本研究は日本、中国、韓国の乳がんの研究者を中心とした国際共同研究です。本研究は転移巣が少ない再発乳がんにおいて、どのような治療がなされどのような効果があったのかを観察することが目的です。

〔研究意義〕

再発乳がんの治療は薬物療法（全身療法）が基本です。理由は、全身に広がった癌細胞を手術療法や放射線療法の局所療法で治すことは不可能であり、温存した乳房内の再発や限られたリンパ節の再発での外科療法を除いて、転移巣を切除しても生命予後（余命）を改善することはできません。しかし、ある種の再発乳がんは進行が遅く、発見時点で再発巣の数が少ない場合は手術療法や放射線療法などの局所療法も有効であると報告されました。このように転移巣が少ない再発乳がんを希少転移乳がんと言います。全身にがん細胞が広がっているにも関わらず、希少転移乳がんではなぜ局所療法が有効なのかまだ分かっていません。そこで、治癒の可能性のある再発乳がんを検討すべく、希少転移乳がんの方を対象に局所療法と全身療法を加えることで生命予後が改善されるかどうかを検討することとなりました。

〔対象・研究方法〕

- 1) 2005年から2012年までに再発乳がんとして初めて診断された方
- 2) 再発の診断時に脳転移を除く5カ所以下の転移巣を認めた方
- 3) 全身療法、あるいは局所療法と全身療法を受けられた方

以上の対象となる方のカルテから収集できる情報を用いて分析し、希少転移乳がんへの最適な治療法を検討します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部 外科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

お名前、住所、電話番号、カルテ番号などあなた個人情報が特定できないように匿名化した情報を研究に使用しますのでプライバシーは厳重に守られます。

〔その他〕

本研究では対象となる患者様の費用負担や謝礼はありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 帝京大学医学部 外科学講座 神野浩光 教授

研究分担者： 帝京大学医学部 外科学講座 松本暁子 助手

帝京大学医学部 外科学講座 梅本靖子 シニアレジデント

住所： 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 33615]